

フリーアドレスオフィス空間の環境要素がワーカーの交流活動に与える影響

Influence of the environmental elements in the Free-Address office on office worker's communication activities

佐藤 泰 (Tai Satoh) 指導：佐野 友紀

1. 研究目的

本研究では、ワーカーの知的活動向上のために業務中の交流を活性化することをコンセプトとし、様々な業務・交流目的に対応した多様な空間を提供しているフリーアドレスオフィス空間において、行動観察調査とアンケート調査を通してそれぞれの空間の利用実態や発生している交流活動を分析することで、オフィス空間の環境要素がワーカーの交流活動に与える影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

調査対象オフィスでは設計コンセプトと設え変更のために2012年、全面改装がなされた。

本研究ではワーカー・空間の「多様性」を意識していた改装前（2011年）と、それらの「つながり」を意識した改装後（2012年）の2回調査を行い、それらを比較する。いずれも様々なコンセプトの空間を持ち、多数のフリーアドレス席を有する。

1) 行動観察調査

◆調査日時

2011年10月6、7日 10:00～12:00 14:00～16:00

2012年10月5、12日 8:30～12:00 14:00～17:00

◆調査手法

ワーカーの部門・職位、着席分布、通路通過回数、会話などを記録員とビデオカメラによって記録した。

2) オフィス利用に関するアンケート調査

◆調査対象 対象オフィス勤務のワーカー

◆調査内容 業務内容毎のフリーアドレスオフィス内での場所選択に関する質問

3. 研究結果

1) 通路の通過回数と会話発生回数

オフィス内の通路では、磁石のようにワーカーを引きつける仕掛けを持つ空間（カフェコーナーなど）を指す「マグネットスペース」や「オフィス出入口」につながる通路で通過が多いことが分かった。

また、各通路の通過回数と会話発生回数の間には正の相関があることが分かった。

2) 各スペースにおける会話相手の部門割合

各スペースにおける会話者の組合せについては、マグネットスペース、特に改装後の「パブリックスペース（執

務スペース）」・「リフレッシュスペース（マグネットスペース）」では、他のスペースと比較して他部門との会話割合が多いことが分かった。

3) 各スペースにおける会話内容割合

マグネットスペースに加えて、改装後の「パブリックスペース」でも「声かけ」・「業務外」といった業務以外の内容の会話が多く発生していた。

4) 各ワーカー属性における会話状況割合

改装に伴って、元からその場所にいるワーカー同士の会話を示す「内→内」の会話の割合が減少し、他の場所からやって来たワーカーから元からその場所にいるワーカーへの会話を示す「外→内」や他の場所からやって来たワーカー同士の会話を示す「外→外」の会話の割合が増加した。

4. 考察/まとめ

マグネットスペースの配置と動線計画

マグネットスペースにつながる通路で通過回数が多くなっていること、通路の通過回数と通路上での会話発生回数に正の相関があること、マグネットスペースにおいて「他部門との会話」・「業務以外の会話」が多く発生していたことから、マグネットスペースの配置や動線計画によって会話の発生回数を増加し、また会話の相手や内容を広げる計画が可能であると考えられる。

他部門との交流空間の配置が交流に与える効果

改装後においては、「内→内」の会話の割合が減少し、「外→内」・「外→外」の会話の割合が増加していた。この結果には、改装前と比べて各部門のワーカーの着席分布が広範囲に広がったために、同部門のワーカーと話すために相手の席まで移動することが増えたことが影響していると考えられる。

他部門との交流空間の配置が交流に与える効果

一般のマグネットスペースでは、会話をする2人以上が偶然同時にその空間にいないと会話が発生しない。これに対し改装後の「リフレッシュスペース（マグネットスペース）」では、隣接する「パブリックスペース（執務スペース）」に常に業務をしているワーカーがいることで、両スペースの間での会話が活性化した。このため、「パブリックスペース」では通常の執務スペースではあまり発生しない他部門との会話や業務以外の会話が頻りに発生したと考えられる。